

事業名：酪畜飼料の安定生産に向けた人工衛星画像解析データ活用型サービスの開発

事業者名：株式会社サングリン太陽園、国際航業株式会社、酪農学園大学、JA道央

分野（あてはまるものに○）

○農業、漁業、林業、資源探査、環境管理、
インフラ管理、違法事業管理、測量・地図、建設・都市計画、災害対応、保険、スポーツ、その他（ ）

1. ソリューションの開発・実証内容

・牧草地の植生状況の把握

解析内容：牧草地の植生状況診断

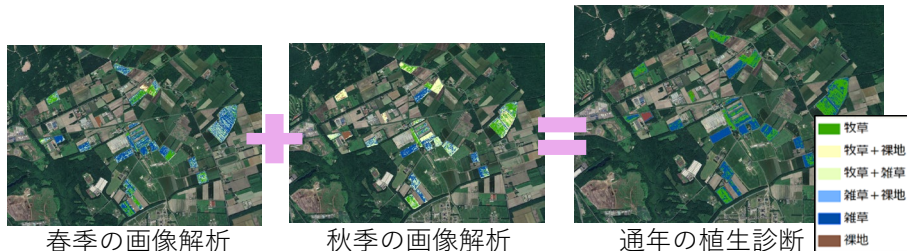
解析仕様：牧草・雑草・裸地・混在を画素ごとに判別色表示

時期：春季、秋季

※春季と秋季の植生を解析し、季節遷移を反映した通年植生診断を行う

目的：牧草地管理手法の選定、

想定利用者：農業生産者、JA、TMRセンター



・飼料用トウモロコシの収穫適期の可視化

解析内容：飼料トウモロコシの含有水分率

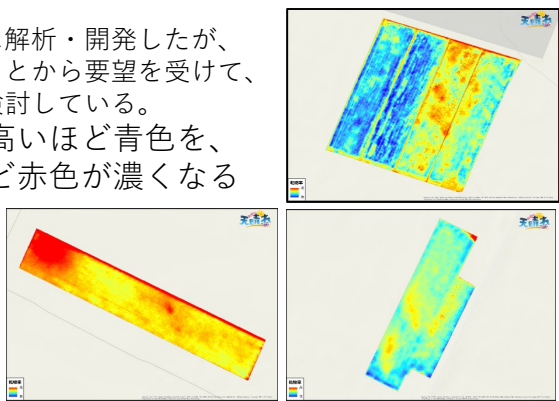
時期：収穫期前

※実証では収穫直前を対象に解析・開発したが、現地検証結果が良好だったことから要望を受けて、さらに前の時期についても検討している。

解析仕様：含有水分率が高いほど青色を、乾燥が進むほど赤色が濃くなる

目的：収穫計画立て、
収穫遅延や早期乾燥の検知
圃場設計（追肥・堆肥）

想定利用者：農業生産者、
JA、TMRセンター



・難防除雑草「エゾノギンギシ」の検出、ピンポイント防除

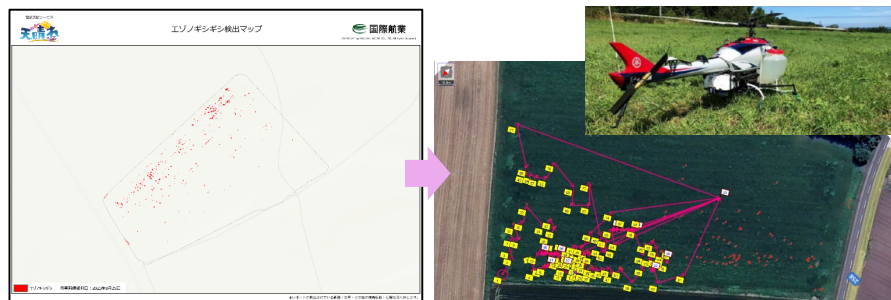
解析内容：牧草地の難防除雑草「エゾノギンギシ」の検出

解析仕様：検出の位置情報を表示

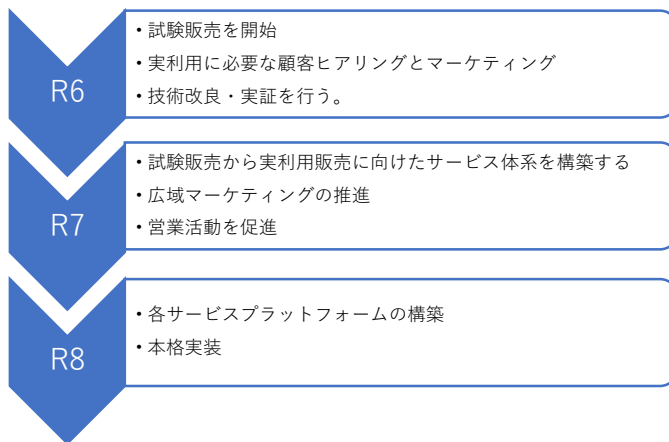
防除仕様：ピンポイント/エリア防除、追肥・播種

目的：牧草地の早期植生改善、農作業の省力化

想定利用者：農業生産者、JA、TMRセンター



2. 事業化に向けての想定スケジュール



3. 利用した衛星データ

[衛星データの種類]

- ・World-View2
- ・Planet
- ・GRUS

4. 課題（技術および事業化について）

- ・農業スケジュールや気候変化に対応できる人工衛星画像の調達時間の短縮化、撮影回数の増加
- ・人工衛星画像品質の安定化
- ・酪農、畜産分野において人工衛星画像から解析した情報化の有用実績が少なく、認知度が低い
- ・農業分野のDX化の進行の地域差が大きく、割合ではアナログ管理が主流である
- ・ITインフラ、IT利用リテラシーが整っていない
- ・人工衛星画像解析に必要な圃場データの整備がされていない地域が多い
- ・リモートセンシングと現場情報の粒度の差異を埋める技術開発